

【中学生部門】優秀賞

会えたときには、よろしくね

太田市立宝泉中学校 3年 増田 日菜里

いつか生まれてくる私の子どもへ。今はまだ中学生の私には、とても遠い未来のこのように感じてしまうのですが、一生懸命想像して書きます。

私は小さい頃からお母さんになるのが夢でした。だからあなたが生まれてきた時は、嬉しくて仕方がないと思います。たくさん愛情を持ってたくさん可愛がってあげます。私のお父さんとお母さんがそうしてくれたように。私の理想のお母さん像は私のお母さんです。あなたのおばあちゃんにあたりますね。とても優しく、いつも私の話をよく聞いてくれます。そして、「あなたが正しいと思ったように、何にでも挑戦しなさい。もしそれが間違った選択なら、注意してあげるから。」ということをよく言います。ダメなことはダメ、としつかり言いますが、それ以外の判断は全部私にさせてくれるのです。あれをしなさい、これをしなさい、ということを言われなからこそ、自分で「やろう」という気持ちになるので全力で打ち込めます。お母さんがお母さんでよかった、といつも思います。あなたにもそんな風に思ってもらえるように、頑張るからね。

私は三人兄弟の一番お姉ちゃんです。もしあなたが一人っ子なら、兄弟が羨ましく思えるでしょう。私も弟が生まれる前はそう思っていたけれど、いざ兄弟ができてみると、一人っ子が羨ましくなくなりました。弟や妹ばかり可愛がられているように思えるのです。私は一度、お父さんに「どうしてうちは三人兄弟なの。」と聞いたことがあります。するとお父さんは、「三人いると、ババ抜きが楽しいでしょう。」と言いました。その時はピンと来ませんでした。が、要するにたくさん人がいた方が面白いということでしょう。確かにその通りだと思います。家族の中でもみんな違う意見を持っているから話していて楽しいし、新しい発見があったりします。私もそんな楽しい家庭を作りたいと思っています。

理想の、良いお母さんになりたいと思っていますけれど、時にはあなたを厳しく怒ることがあるでしょう。でも、あなたに幸せになってほしいから怒るのです。嫌いだからではありません。これは私のお母さんがよく言うことです。あなたに会えることを、今からとても楽しみにしています。きっと不器用なお母さんだと思うけれど、よろしくね。